

令和 2 年度 中国・四国地域国際化協会連絡協議会
「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業」実施報告

ブロック	中国・四国ブロック	幹事団体	公益財団法人しまね国際センター
開催日時	2020年10月31日(土) 10:30～16:45		
研修のねらい・目的	<p>災害多言語支援センターでの活動を実際に行ってみることにより、災害時における外国人住民支援を円滑に行うために必要な事前準備事項を明らかにし、今後の災害に備えようとするものです。災害時に準備すべき事項はたくさんありますが、今回の訓練ではとりわけ次の事項を明らかにすることをねらいとしています。</p> <p>1 実地訓練を通して災害時の外国人支援のイメージを明確にする。 2 イメージを明確にし、地域国際化協会としての課題、広域連携の課題を探る。 3 新型コロナウイルスに対応したネット環境を活用した支援活動のあり方を探る。</p>		
想定災害	<p>鳥取沖合断層で発生した地震災害に対して、松江市に設置された島根県災害多言語支援センターの運營業務に遠隔で携わることとなったと想定します。</p> <p>島根県災害多言語支援センターの建物は被害がなく、インターネットおよび電話回線は使用できること、また、幸いにしてみなさんの家族は無事であり、この活動に集中できる条件は整っていることとします。</p> <p>① 地震想定 令和 2 年 10 月 28 日(水)午前 10 時 7 分に鳥取沖合断層を震源とする M8.1 の地震が発生。各地の最大震度は次のとおり。</p> <p>震度 6 強 松江市、出雲市、雲南市 震度 5 強 安来市</p> <p>② 島根県の体制</p> <p>(ア)知事を本部長とする島根県災害対策本部を設置 (イ)直ちに、知事を通じて自衛隊の災害出動を要請 (ウ)県内の被害状況を把握するとともに、消火、救急救助活動を実施 (エ) 県内各地域で避難所の開設を行なっているが、災害対策本部から各避難所への職員派遣が困難な状況 (オ)開設済みの避難所への救援物資の搬送を計画など詳細日程</p>		
会場・場所	ZOOM		
参加者	地域国際化協会中国・四国ブロック構成団体、中国・四国地域の地方自治体 30 名		
研修内容 (概要)	<p>9:00 CLAIR 会議室 (高橋、柴垣、村上) 集合 参加者の登録アドレスに、研修レジメ及び ZOOM のパスワードを送信</p> <p>10:00 しまね国際センター(小寺、横田)・仙台観光国際協会(須藤)・名古屋(土井)・AICA(明木)接続</p> <p>10:20 参加者の zoom 接続確認</p> <p>10:30 中国四国ブロック研修を開始 一般財団法人自治体国際化協会多文化共生課長 藤波香織挨拶 中四国ブロック幹事団体公益財団法人しまね国際センター高橋泰幸事務局長挨拶</p> <p>10:45 一般財団法人自治体国際化協会災害時外国人支援アドバイザー</p>		

公益財団法人仙台観光国際協会須藤伸子氏の講話

「多言語支援センターの役割と課題」

- 11:40 一般財団法人自治体国際化協会災害時外国人支援アドバイザー
船橋市国際交流課長高橋伸行氏から多言語支援センター訓練の進め方説明
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 情報班作業の災害情報の共有、日本語原稿の作成、多言語チラシの作成
訓練開始
- 15:45 ふりかえりとまとめ（情報交換）
- 16:40 一般財団法人自治体国際化協会多文化共生課長 藤波香織挨拶
- 16:45 中国四国ブロック研修を修了



(研修の様子)

参加者アンケート結果
(抜粋)

1. 今回の研修に参加されたご感想をお聞かせください。

大変満足している 5 ポイント 満足している 12 ポイント やや不満足 1 ポイント

上記理由を具体的にお書きください。

- ・多言語支援センター設置時のシミュレーションを行うことで、これまでは具体的に想定していなかった運営体制のイメージを確認することができました。
- ・他県の災害時外国人支援対策状況や、対応可能言語などを知ることができ、情報共有ができたことがよかった。また、実際に地震が発生した時のことを具体的にイメージしながらワークをしたことで勉強になった。ワークの時間に余裕がなかったため、もう少し長めの時間設定であればより考えを深められたと感じる。ネットワークの不具合か、講師や他の参加者の声は聞こえるがこちらの声は届かなかった。
- ・広域による遠隔支援について実際にオンラインで体験できたことは、現実味を帯びており有意義な学びとなりました。
- ・演習で実際に自分たちで情報の取りまとめやチラシの作成をすることは、色々な気付きがあり有効でした。また、各団体の成果物を拝見することによって、より多くの気付きを得ることができました。
- ・チラシの作成では、いかに自分が「やさしい日本語」に慣れていないか分かった。日付を入れることはとても大切だと分かった。新たな気づきがあって良かった。
- ・演習については、全体的に時間不足だと感じました。オンライン研修で各団体が別々に演習するのであれば、事前課題として情報翻訳チラシ等作成しておき、当日は流れの確認と参加者で共有という形のほうが、お互いに参考にできる内容が多いのではないかと思います。
- ・中四国が連携して、通訳の不足を補完し合う関係ができてつつあるのがよかった。

	<p>・もう少し、自分たちの成果物に対する講師の方の意見が欲しかった。</p> <p>2. 本研修講師へのご感想をお聞かせください。</p> <p>良く理解できた 9 ポイント 理解できた 9 ポイント</p> <p>上記理由や講師への希望事項などをお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の震災時の実際の対応例も紹介いただき、非常に参考になった。 ・災害時の外国人支援に関して、地震等が起きた場合に中国四国地域のみなさんと協力できそうな点を確認できてよかった。 ・災害対策本部から寄せられる情報の具体的な翻訳、発信のスケジュール感など、実践的なお話が聞けて、大変参考になりました。 ・多言語支援センター運営上の留意点や実際の苦勞などについて、もう少しお話を伺う時間があってもよかった。 <p>3. 今後、開催して欲しい研修等ございましたら、ご意見をお聞かせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでできる研修、対面だからこそできる研修の使い分けをしていただけたらと思います。 ・災害時に最前線で活動することになる「市町村」がより多く参加するような研修もご検討いただければと思います。 ・今回の研修のようなものを、国際交流主管課や協会のようなところだけでなく、実際に災害が起こった時に関わるであろう危機監理課や社会福祉協議会等関係機関も一緒に巻き込んで受講し、共通認識を高められるような機会があればいいなと感じました。 <p>4. その他、ご意見・ご要望をご自由にお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン対応の災害研修は初めてでしたが、支援方法や課題について理解を深めるだけでなく、研修の進め方の勉強にもなりました。 ・広域連携の災害時研修として、オンライン版も今後改良していただけるとよい。
<p>まとめ</p>	<p>島根県松江市を会場にして研修を開催する予定であったが、最終段階にきて COVID19 感染拡大の影響により急遽リモートでの研修へと内容変更をすることになった。講師をはじめ NPO タブマネとしてもリモート研修の経験もあり、時間のなかでの変更ではあったがスムーズに対応した。</p> <p>アンケート結果からみられるように、内容においても好評であった。しかしながら質問 1 において 1 ポイントだけやや不満足との回答では、「災害多言語支援センター開設作業・運操作業において事前課題を持ち寄った方が当日の時間を有効に使えた。また、実際に災害が起きた場合に相互でどういった協力できるか、より具体的な意見交換や協力体制確保が出来たら良かった。」とあった。これは今後検討していきたい。</p> <p>zoom における音声障害などが発生したが、早々に修復できた。今後は、事前に参加者全員をつなげて確認を行うことも必要かもしれない。</p>